

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N°87 janvier 2010 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE



知事ら三重県の経済使節 仏アヌシー広域行政体との提携に調印

経済交流や大学の共同研究も視野に

三重県の野呂知事ほか、四日市市、津市、(財)三重県産業支援センターの代表ら20数名の使節団は、昨年11月、フランス南東部オートサヴォア県のアヌシー市を訪問、同市を含む広域行政体および、この地域のメカトロニクス関連産業の集まりであるアルプ・インダストリー・クラスターと交流セッションを開催し、双方の地域産業の強化を目指して産業協力協定を締結しました。フランス側は地域の団体の代表のほか、フランス国民議会(国会)のベルナル・アコワイエ議長も参加、調印しました。

スイス国境に近く清冽なこの地域は精密機器の産業が盛んで、桑名市に生産拠点をもつ鋼球メーカーNTN社と当地のSNRとの間で、これまでに資本提携が進んできたのがきっかけとなったもの。今後、両地域の技術、ビジネスの交流と研究について連携するほか、サヴォア大学と三重大学の共同研究、学生の交流なども目指しており、近くサヴォア大学側の三重大訪問も予定されているとのこと。

(写真 三重県提供)

NOTE



フランス総領事館が京都へ移転

在大阪・神戸フランス総領事館はこれまで大阪府中央区のクリスタルタワーに置かれていましたが、昨年末、京都市左京区東一条にある関西日仏学館内に移転し「在京都フランス総領事館」となりました。京都は学生、研究者など在住フランス人も多く、フランスからの観光客も年間5万人以上になっていることもあり、この際、関西のさまざまな機能を集約して「関西でのフランスの象徴的存在になる」としています。1月25日にはフィリップ＝ジャンヴィエ・カミヤマ総領事招待による移転記念のレセプションが開かれ、本会から内田会長と井土副会長が列席しました。（写真 総領事館提供）

フランス大使館でレセプション

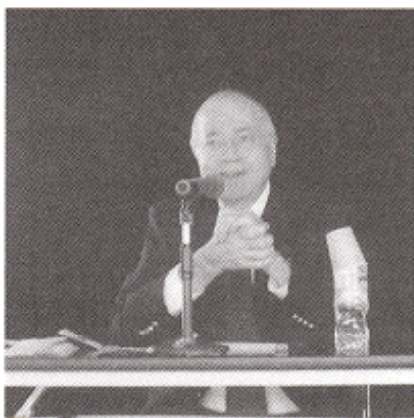
去る12月18日日、フィリップ・フォール駐日フランス大使はTV5の日本への本格的進出を記念してレセプションを開催、本会内田淳正会長も招待を受けましたが、会長所用のため矢野隆嗣理事が代わって列席しました。以下は矢野理事の報告：

く在日フランス大使公邸は、現代的で洗練された五階建ての建物で、2009年12月港区南麻布の旧邸に、新庁舎が完成したばかりです。MTV,CNNと並ぶ世界の3大ネットワーク、TV5MONDE（フランス語国際放送局）の24時間ライブ放送に日本語字幕が付くことになり、これを機に訪日したサラゴス社長を迎えるレセプションに代理出席させて頂きました。笑顔が似合う美しい女性社長で、挨拶は有名な詩句や小説を引用してエスプリの効いたものでした。テーブルに所狭しと並べられたワイン、料理はとても素晴らしい、すぐに無くなりそうで少々不安でしたが、次々とお代わりが運び込まれ一安心。皆様を代表していただきまいました。同社の日本駐在代表は山下郁子さん、これを契機に日本を世界に発信したいと意欲的で、伊勢・志摩に魅了され度々三重を訪れるとお聞きし、三重日仏との交流を期待しますと伝えました。小生の拙いフランス語 *Puis-je prendre une photo avec vous?*（私といっしょに写っていただけますか）が辛うじて通じたようで、フィリップ・フォール駐日フランス大使、サラゴス社長、磯村尚徳氏（元NHK欧州報道局長）と首尾よくツー・ショットが取れました。新しい大使館公邸の落成式が12月11日、その1週間後に訪れる光栄に浴したことを改めて感謝いたします。>



矢野理事とフォール大使

（詳細は www.tv5monde.com/japon）



日仏景観会議「伝統から未来へ」ー伊勢市で開催

NPO法人日仏景観会議などが主催する表記の催しが、昨年12月20、21日、伊勢市で開催されました。「景観を表象とする自分たちの環境を保全・向上する方策を考えるため」1999年以來、ほぼ毎年フランスの専門家を招いて開かれているもので、特に今回は伊勢神宮の遷宮を前に伊勢市での開催となりました。シンポジウムで講演した前ソルボンヌ大学学長 ジャン＝ロベール・ピット氏は近年のグローバリゼーションによって、景観や食など世界の文化が均一化されていることを憂慮し、「地域のエスプリ」の重要性を強調されました。本会からも5人が参加しました。



「世界の絵本の読み語り」 —グットマン先生がフランスの絵本を

子どもといっしょに世界各国の絵本を、それぞれの国の人に読み聞かせしてもらおうという催しが、さる10月30日、みえ県民交流センターなどの主催によりアスト津で開催されました。三重日仏協会常務理事のティエリー・グットマンさん（三重大学人文学部）も英語、ドイツ語などの読み手に混じってフランスの絵本を読み語りました。

伊勢・外宮前広場で「饗宴2009」—フランス料理に人だかり

おなじみのフランス料理店「カンパーニュ」「ボンヴィヴァン」ほか、伊勢市周辺の14の有名店が一堂に会し、地産地消、食文化の向上などをアピールして料理を提供するイベントが去る11月23日、外宮前のテント広場で開催されました。開場前から長蛇の列が並ぶ盛況で、ブイヤベース、フォアグラなど、平常よりはるかに廉価な料理を求める客への対応にスタッフたちは汗だくでした。



中国での出会いから「日仏交流」—大橋さん夫妻とベイラック夫妻



津市の歯科医・大橋隆道さんと幸子さん夫妻は一昨年中国旅行の際、旅先で偶然出会ったフランス人の教員・ベイラック夫妻と意気投合、昨年は大橋夫妻が招かれてバス地方を訪問、11月にはベイラック夫妻が大橋家にステイして関西観光を楽しみました。三重日仏協会では遠来の夫妻を歓迎しようと急遽有志を募り、大橋夫妻とともに津市内のサンマルコでささやかなパーティーを催しました。

（左端がダニエル、シャルル・ベイラック夫妻）

姫路日仏協会が設立5周年を祝う

全国の日仏協会のなかでは比較的后発ながら活発な活動を続けている姫路日仏協会（白井智子会長）が、10月12日設立5周年を記念し、フィリップ・フォール駐日大使夫妻や日仏協会関係者らを招いてレセプションを開催、本会からは豊田元子専務理事が参加しました。豊田さん談く正面の大きなスクリーンに写しだされた姫路日仏の5年間の歩みの映像は内容多彩ですばらしく、20数年前の三重日仏設立当時の情熱とオーバーラップして感慨深かった。若い人たちの参加も多く、三重も世代交代して新たな活力を生かしたいものと思いました。>

2/14 村林浩代ソプラノリサイタル

本会会員の声楽家・村林浩代さんが津市主催の文化振興事業「郷土シリーズ」コンサートに出演します。スペシャルゲストに著名なオペラ歌手・谷友博氏（藤原歌劇団・バリトン）を迎え、合唱団「うたおに」の賛助出演もあって、充実した楽しいコンサートになるものと期待されます。

日 時：2月14日(日) 14時開演 (13時30分開場)
 場 所：津リージョンプラザ お城ホール
 入場料：前売り1,000円 当日1,500円 (全自由席)
 プログラム：ビゼー「カルメン」からハバナ、闘牛士の歌
 ヴェルディ「イル・トロヴァトーレ」から二重唱 ほか

3/21 柏木隆雄氏「第12回文芸講演会」

＜短編小説の楽しみ方—モーパッサンの「首飾り」を題材に—＞

すっかりおなじみとなり、いよいよ興味をます三重日仏協会主催の「柏木文芸講演会」は、この春で12回目を迎えます。昨年、大阪大学教授ご退職後、放送大学大阪学習センター所長に就任されたフランス文学研究者・柏木隆雄先生（松阪市出身）の今回のお話戦前からわが国でも最も人気のあった仏19世紀の自然主義小説家モーパッサンをテーマに、下記のように開催されます。一般公開で入場無料です。お誘いあわせてご来聴ください。できればあらかじめ「首飾り」を一読しておかれたらより興味深いかも知れません。

日 時：3月21日(日・祝) 14時30分より16時30分 (14時受付開始)
 会 場：津センターパレス(津市大門) 2階会議室1
 演 題：短編小説の楽しみ方 —モーパッサンの「首飾り」を題材に—
 講 師：柏木隆雄先生

講師のひとつこと…夏目漱石はモーパッサンを「巾着きり」みたいな奴、と言いました。芥川龍之介は、モーパッサンは氷に似ている、しかし時には氷砂糖にも似ている、と言いました。三遊亭円朝もモーパッサンの短編を落語種にしています。彼の短編小説のなかでも傑作とされる「首飾り」の思いがけない秘密を解き明かそうと思います。

◆雑誌「ふらんす」に随想連載

—会員・住谷 史雄さん

昨年新しく本会に入会された住谷史雄さん（日本経済新聞津支局長）が白水社発行のおなじみの雑誌「ふらんす」に『現代フランス モ・ド・クレ・ア・ラ・カルト』（仮題）というテーマで4月号（3月発売）から1年間、エッセイ風の文章を連載執筆されることになりました。フランス語の初心者を対象に、フランスの社会や文化に関心・興味をもってもらえるような、堅苦しくない読み物を目指しているとのことで、初回は「インターネット」に関する内容になるそうです。